



# 美ら島沖縄

3 MARCH 2023. vol. 570

～ちゅらしまおきなわ～

特集

あかし 「米国統治の証」を未来へつなぐデジタルアーカイブ

読者  
プレゼント

抽選で10名様に

詳細はP15を  
チェック!







# 復帰 50 周年記念事業

～沖縄の発展のあゆみや将来の可能性、見て、知って、考える機会としよう～



## 沖縄鉄軌道導入に向けて

沖縄県は、基幹的な公共交通システムである鉄道\*を有していない我が国で唯一の県です。

戦後、米軍統治下にあった本県では、沖縄戦で壊滅した軽便鉄道の復旧は行われず、その後の急激な自動車交通の増大等による慢性的な交通渋滞や公共交通の衰退、環境負荷の増大など様々な問題が生じています。\*沖縄都市モノレールは鉄道ではなく軌道



沖縄鉄軌道シンボルマーク

### 復帰50周年記念事業『鉄軌道がもたらす新しい沖縄へ』

県では、沖縄の歴史的・社会的事情を踏まえて、鉄軌道を含む新たな公共交通システムの導入に向けて、県民一丸となった機運醸成等のため、今年度は復帰50周年記念事業としてワークショップやイベント等を実施しました。今後も沖縄鉄軌道の早期導入に向けた取組を進めてまいります。

イベント

中・高校生向け 鉄軌道導入効果体験  
～in北九州～ (令和4年8月)

県内の中・高校生を対象に、本島中南部と面積・人口規模が近い福岡県北九州市で鉄軌道を中心とした公共交通の乗車体験を通し、利便性や駅周辺のまちづくりなどを学びました。(参加者15名(応募者90名))



イベント

小学生向け 子どもえきまちづくり  
ワークショップ(令和4年9月)

小学生を対象にワークショップを開催し、建物や線路・道路、乗り物の模型を組み合わせながら、駅を中心とした憧れのまちづくりに挑戦しました。(参加者67名)



イベント

鉄軌道がもたらす  
新しい沖縄へ(令和4年10月)

『鉄軌道がもたらす新しい沖縄へ』と題して、ラジオの公開生放送・鉄軌道導入体験の発表会・鉄軌道パネル展等を県内大型商業施設で実施しました。



シンポジウム

沖縄鉄軌道とまちづくり  
(令和4年11月)

くぼた ひさし  
埼玉大学 久保田尚教授による基調講演に加え、パネルディスカッションを行い、沖縄の鉄軌道計画など、将来の沖縄の発展に求められる交通体系について意見を交わしました。(参加者130名)



沖縄鉄軌道に関して、専用ホームページを開設しております。  
是非ご覧下さい！



HP

問い合わせ

交通政策課 電話:098-866-2045 FAX:098-866-2448

毎月第3水曜日は、「手話推進の日」



1/6 令和4年度沖縄県軍用地転用促進・基地問題協議会の通常総会

沖縄県軍用地転用促進・基地問題協議会の通常総会が、ヒルトン沖縄北谷リゾートで開催されました。本協議会は、県と米軍・自衛隊の基地が所在する県内27市町村で構成されており、米軍基地及び自衛隊基地から派生する諸問題について相互に協力してその解決を図ることに、県民生活と福祉の向上に寄与することを目的としています。

本協議会の会長として総会に出席した玉城知事は、「県民の基地負担の軽減を図



玉城知事が会議で発言している様子

1/16 「沖縄県 観光トップセールス in 台湾」を実施

昨年10月に日台の渡航制限が緩和され、台北―那覇路線が本格的に再開したことを受け、ウイズコロナ・アフターコロナにおける観光誘客の促進を図ることを目的に、照屋副知事が台湾の行政機関（観光関係）及び航空会社を訪問し、路線再開に歓迎の意を示すとともに今後の台湾と沖縄の交流促進に向けた意見交換を行いました。

航空会社からは、台北以外の都市との路線の早期回復や運航便数の増便についての前向きな発言があったほ



台湾観光協会会長との意見交換の様子

1/7 動物愛護管理センター「譲渡推進棟」開所式の開催

犬や猫の譲渡拠点となる動物愛護管理センター譲渡推進棟の開所式を行いました。

式では、広く県民から公募し決定した譲渡推進棟の愛称「ハピアニおきなわ」を発表し、名付け親の中部農林高等学校（3年）の眞榮田凜奈（まへだりんな）さんは「ハッピー」と『アニマル』が掛けられ、動物たちが幸せになるように、という願いが込められています。」と述べました。

また、玉城知事は、挨拶で「沖縄県としては、譲渡



動物愛護管理センター開所式の様子

推進棟を効果的に活用し、引き続き命が尊重される動物愛護施策を推進してまいります。」と述べました。

1/16~19 玉城知事がパラオ共和国とグアム準州を訪問

1/16、17の日程で玉城知事は、昨年8月にパラオ共和国と締結した友好関係強化に向けた覚書締結を記念して、県内の漁業団体等と共に同国を訪問しました。主要閣僚等要人と面談したほか、



パラオでのセミナーの様子



グアムでの意見交換の様子

「沖縄MOUセミナー」を開催しました。

続く1/18、19には、アメリカ合衆国グアム準州を訪問し、米軍関係者と意見交換を行うとともに関連施設等を視察しました。さらにグアム準州のルー・レオン・ゲレーロ知事を表敬訪問し、島しょ地域に共通する課題への取組について情報交換を行いました。

また玉城知事は、先の大戦で亡くなられた方々の慰霊のため、各訪問先で慰霊碑等を訪れ献花を行いました。

3 2023. MARCH 美ら島沖縄 vol.570

- 02 復帰50周年記念事業 沖縄鉄軌道導入に向けて
- 03 県政フラッシュ
- 04 特集:「米国統治の証」を未来へつなぐデジタルアーカイブ
- 06 沖縄あんやたんかんやたん -2017年~2021年編-
- 08 取り戻そう!健康長寿おきなわ! タバコの煙から子どもを守るために!
- 09 県の動き1(妊娠・出産・子育ての総合的な相談窓口 母子健康包括支援センター) 県の動き2(あなたの力が必要です!)
- 10 あの作品のロケ地へGO! 美ら島ロケ地めぐり[北谷町]
- 11 県の動き3(新生活をパスやモノレールではじめよう)
- 12 情報ひろば
- 14 県の動き4(2023年版「おきなわ食材の店」ガイドブックが完成しました!)
- 15 読者プレゼント・読者の声

沖縄の人口・世帯の動き 令和5年1月1日現在

146万9,382人 総人口 ※前月比152人の増加

63万3,685世帯 世帯数 ※前月比459の増加

沖縄県庁広報課 公式LINE @okinawa-government

沖縄県庁広報課 公式ツイッター @okinawa\_pref

本号の電子Book版とバックナンバーはホームページでご覧いただけます。

美ら島沖縄 検索

美ら島沖縄の設置場所  
県内コンビニ、モノレール各駅等で無料配布しています。また、公共機関や銀行、病院など多くの方々が利用する施設でもご覧いただけます。新規設置施設も受付致しておりますので、関心のある方は広報課までご連絡ください。なお、全世帯向けの個別配布は致しかねます。ご了承ください。

今月の表紙

「沖縄の食文化」  
山里 美紀子  
大自然あふれる沖縄に自生している野草の香りを楽しんだり、そのまま食べたり、料理に加えたりしている様子や、沖縄ならではの食材を使った季節ごとの料理を描きました。



## 「米国統治の証」を未来へつなぐデジタルアーカイブ

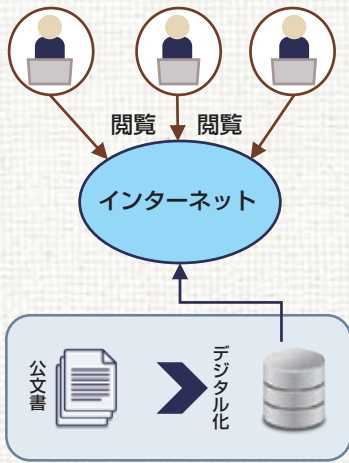
あかし

### 琉球政府関係文書 デジタル・アーカイブ事業

昨年、テレビや新聞、文化施設等で沖縄の本土復帰50周年を記念した様々な取組が行われ、沖縄戦や米国統治といった出来事が記録を通して伝えられました。それは、県内外に沖縄の歴史を知ってもらう機会になっただけでなく、歴史を振り返るには記録が大切なことを知ってもらう機会にもなりました。

県では、公文書管理業務の一環として「琉球政府関係文書デジタル・アーカイブ事業」を実施しています。この事業では「アメリカ世(ゆ)」と言われる米国統治下(1945年〜72年)の沖縄をテーマに、その時代に存在した琉球政府と、米国側の琉球列島米国民政府の公文書を中心にデジタル化し、インターネットを通じて公開しています。

27年間にも及ぶ米国統治という特殊な状況下で、沖縄で何が起き、どのような経緯で復帰へ至ったか、歴史の証である公文書を通して次世代に伝えていきます。



### ウェブサイト 「琉球政府の時代」

デジタル化した公文書を随時公開しているサイトが「琉球政府の時代」です。公文書の閲覧をはじめ、米国統治下の沖縄に関する様々なコンテンツが無料で利用できます。

現在は10万冊余りの公文書を公開しており、国内最大級の公文書アーカイブとして、令和元年度にはデジタルアーカイブ学会賞を受賞しました。

### 時を超えて伝えたい沖縄がここにある

戦争でほとんどの公文書を失った沖縄にとって、戦後の米国統治下で残されてきた公文書は、なおさらかけがえない財産です。「琉球政府の時代」は、この財産を次世代へつなぐプラットフォームとして、「だれでも、どこでも、いつでも、いっまでも」利用できるサイトを目指して運営しています。



## 米国の沖縄統治のあらまし(1945年~72年)

このサイトがテーマとする米国統治下の時代背景を振り返ります。

#### ◆沖縄戦と米軍政の開始

日本が連合国と戦った太平洋戦争末期の45年、米軍は3月に慶良間諸島へ、4月に沖縄本島へ上陸し、沖縄戦が始まります。**①**

上陸した米軍は戦闘と同時に占領地において日本の行政権停止を宣言し、軍政を開始しました。それから27年間、沖縄は日本とは別の道を歩みます。

#### ◆太平洋戦争と沖縄戦の終結

45年8月14日、日本はポツダム宣言受託を決定し、9月2日に同宣言の履行を定めた降伏文書に調印して太平洋戦争が終結します。以降、日本は連合国軍の占領下に置かれます。

一方、沖縄では45年6月に日本軍の組織的抵抗が終わった後も局地的には戦闘が続き、9月7日に南西諸島の日本軍が降伏文書に調印して沖縄戦が正式に終結します。**②**

その後、沖縄は日本と行政的に分離され、米国による軍政が継続します。

#### ◆琉球政府の設立と対日平和条約発効

対日平和条約発効を直前に控えた52年4月1日、米国民政府の下に琉球政府が設立されます。**③**そして28日、同条約が発効すると、連合国軍の占領が終了して日本は主権を回復しますが、沖縄は帰属確定までの間、正式に米国の施政下に置かれることになりました。

#### ◆沖縄返還協定発効、本土復帰

それから20年経過した72年5月、沖縄返還協定の発効により、沖縄は日本へ返還され、地方自治法上の県として新たなスタートを切りました。**④**



**4** 沖縄復帰記念式典  
(1972年5月15日 那覇市民会館)



**3** 琉球政府創立式典  
(1952年4月1日 琉球大学)



**2** 沖縄戦の降伏調印式  
(1945年9月7日 嘉手納基地)



**1** 沖縄本島に上陸する米軍  
(1945年4月1日 読谷村)





## 琉球政府文書とUSCAR文書

デジタルアーカイブの対象にしている「琉球政府文書」と「USCAR(ユースカー)文書」について説明します。

### ●琉球政府文書とは

占領初期、米国は北緯30度以南の南西諸島を沖縄、宮古、八重山及び奄美(鹿児島県)の4群島に分割して軍政を敷き、その下に住民による行政機構を設置しました。そして、52年4月に統一機構として琉球政府を設置しました。琉球政府は琉球における政治の全権を行うことができます。ただし琉球列島米国民政府の布告、布令及び指令に従うという立場でした。「琉球政府文書」とは、琉球政府やその前身機構の公文書群をいいます。

### ●USCAR文書とは

米国は、琉球列島での行政運営方針「軍事的必要の許す範囲において住民の経済的及び社会的福祉の増進を図る」を遂行するための在沖行政機構として、50年12月に琉球列島米国民政府を設置しました。「USCAR文書」とは、同政府の公文書群をいいます。

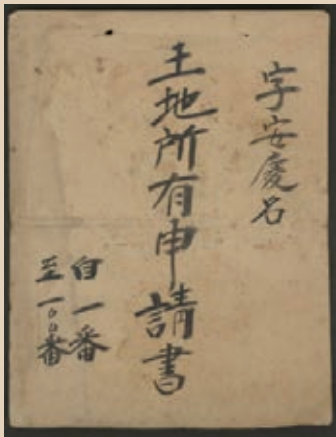
## 米国統治機構と住民自治機構の変遷概略図

|        |                     |                          |                       |   |
|--------|---------------------|--------------------------|-----------------------|---|
| 米国統治機構 | 45年4月～<br>米国軍政府     |                          |                       | 50年12月～<br>琉球列島米国民政府<br>(USCAR)                 |
| 住民自治機構 | 45.8～<br>沖縄<br>諮詢会  | 46.4～<br>沖縄<br>民政府       | 50.11～<br>沖縄<br>群島政府  | 52年4月～<br>(1951年4月に琉球<br>臨時中央政府が設置)<br><br>琉球政府 |
|        | 45.12～<br>宮古<br>支庁  | 47.3～<br>宮古<br>民政府       | 50.11～<br>宮古<br>群島政府  |   |
|        | 45.12～<br>八重山<br>支庁 | 47.3～<br>八重山<br>民政府      | 50.11～<br>八重山<br>群島政府 |   |
|        | 46.2～<br>大島<br>支庁   | 46.10～<br>臨時北部<br>南西諸島政庁 | 50.11～<br>※奄美<br>群島政府 |   |

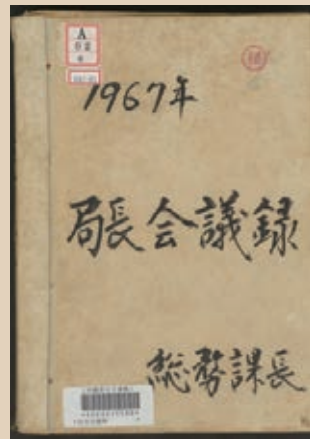
※奄美群島政府は、その後、琉球政府の奄美地方庁となり、1953年12月に奄美群島が日本に復帰し、鹿児島県大島支庁になりました。



## ウェブサイト「琉球政府の時代」で公開中の主な公文書



●土地所有権認定関係文書  
終戦後、戦禍で失った土地の公図や公簿等を回復するため、米国民政府は各市町村長に土地所有者を確認させて、その結果をもとに所有権を認定しました。その際に所有者から提出された「土地所有申請書」や認定された一筆ごとの所有者をまとめた「一筆限調書等」があります。



●琉球政府の局長会議録  
局長会議は「行政主席の政策の樹立及び実施の統一を保持するための補佐機関」で、行政主席(琉球政府の長)、行政副主席及び各行政事務部局長で構成されていました。この会議録には、当時の重要施策や課題に関する審議の過程が記録されています。



●琉球政府の広報誌  
琉球政府は、政府の諸活動について住民の理解と協力を得るため、「広報琉球」「琉球のおゆみ」「沖縄のおゆみ」を発刊しました。これらの広報誌は政府内の活動報告のほか、当時の沖縄や日本の状況についてもわかりやすく住民に説明しています。



●軍用地関係事務所の文書  
占領初期の米軍は、立退命令等により軍用地を取得していましたが、対日平和条約発効後は、収用制度を確立して軍用地を取得しました。軍用地関係事務所の文書には、収用制度に基づく手続きや住民との交渉過程が記録されています。

問い合わせ

総務私学課 電話:098-866-2074

FAX:098-866-2079





帰るを返る  
50年振り  
沖縄

# 沖縄あんやたん かんやたん



2017年～2021年編

2022年5月15日で沖縄が本土復帰して50年。復帰からの50年を毎号5年ごとに振り返り、主なニュースや出来事と共に紹介。その当時を知らない人は学びながら、その当時を知る人は「あんやたん、かんやたん(ああだった、こうだった)」と懐かしみながらその時代を振り返ってみましょう！

協力：沖縄県立芸術大学芸術文化研究所 共同研究員 仲村 顕

観光客が1千万人を突破！  
五輪に喜び、コロナで  
困難もあった5年間

2017年から2021年の5年間で起きた最も大きな出来事は、現在も続く新型コロナウイルスの感染拡大ではないでしょうか。その影響により、東京五輪・パラリンピックは史上初めて開幕が一年延期、無観客での開催となりましたが、県出身・県関係者が活躍。空手男子形の喜友名諒選手による金メダル獲得など、県民に大きな感動を与えました。

一方、観光業を中心に好調だった県経済は、新型コロナウイルスによって大打撃を受け、2018年度に1千万人を突破した観光客は2020年度には258万人まで大幅に減少。さらに首里城が火災により焼失するなど、辛い出来事が続きましたが、沖縄・奄美が世界自然遺産に登録されるなど、喜ばしいニュースもありました。



県内外から多くの支援が寄せられ、再建へ向けての輪が広がりました



提供：沖縄タイムス社

## 8棟が焼損、収蔵品約400点が焼失 県民に深い悲しみ

### 首里城が火災により焼失

10月31日未明に、那覇市の首里城で火災が発生し、正殿、南殿、北殿、書院・鎖之間(さすのま)などの主要6棟が全焼し、奉神門、女官居室の2棟が焼損、貴重な収蔵品も約400点が焼失しました。沖縄のアイデンティティを象徴する首里城の火災は県民に強い衝撃を与えました。



### ここがポイント

その後、県内外そして海外からも首里城復興への支援があり、昨年末までに57億円もの寄付金が県に寄せられています。



## 2017年~2021年 その他主な出来事

### 2017年

- 「空手発祥の地・沖縄」の発信拠点として沖縄空手会館が開館
- 世界ボクシング評議会(WBC)フライ級タイトルマッチで比嘉大吾選手が世界王者に

### 2018年

- 渋滞緩和を目指し、浦添市西洲(いりじま)と宜野湾市宇地泊を結ぶ4.5キロの西海岸道路が開通
- 宮古島のパーントゥが「来訪神 仮面・仮装の神々」としてユネスコ無形文化遺産に登録
- 県知事選で玉城デニー氏が初当選

### 2019年

- 沖縄都市モノレール(ゆいレール)が浦添市(てだこ浦西線)まで4駅延伸

### 2020年

- プロ野球西武の平良海馬投手が、県勢で初めて新人王に選出
- 那覇空港の第2滑走路が運用開始。滑走路処理容量が従来の1.8倍と大幅に拡大
- 県内におけるコロナウイルス(COVID-19)感染者の初確認

### 2021年

- 琉球舞踊真踊流の宮城幸子氏、重踊流の志田房子氏が琉球舞踊の分野で初めて人間国宝に認定
- 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島が世界自然遺産に登録



### ここがポイント

このとき県出身・県関係選手が手にしたメダルの内訳は、金が二つ、銀が一つ、銅が三つです。もう一つの金メダルは、野球の平良海馬選手が獲得しました。

## ラストツアーは75万人を動員 県民栄誉賞の受賞も

### 安室奈美恵氏引退

県出身の歌手、安室奈美恵氏が9月16日に引退しました。引退前日には沖縄コンベンションセンターでライブが開かれ、最後の姿を見届けようと全国から数万人のファンが駆け付けました。



提供:沖縄タイムス社

引退記念イベントが全国で開催されるなど、「引退フィーバー」ともいえる現象が起こりました。

## 2019年



提供:那覇市

## 観光業を中心に 県経済が拡大

### 観光客が1千万人突破

観光業を中心とした県経済の拡大により、観光客が初めて1千万人を突破しました。大型クルーズ船の寄港増や大型連休の好調な旅行需要、下地島空港ターミナルの開港などを背景に、7年連続で入域観光客数の過去最高を更新しました。

## 2021年

## 空手男子形で県出身者初の 五輪金メダル

### 東京五輪・パラリンピックで 県出身・県関係選手が活躍

五輪には県出身・県関係選手は過去最多の11名、パラリンピックは2名が出場し、合わせて計6個のメダルを獲得しました。なかでも空手男子形の喜友名諒選手が県出身者初の金メダルを獲得しました。



提供:喜友名諒/Shutterstock.com

## 島の未来を担う、次世代の「ものづくり」

### パイナップルの葉繊維入りストロー

「捨てるものがない明日」を目指し、環境に配慮した商品を開発している会社「フードリボン」では、パイナップル収穫後、畑に大量に廃棄されていた葉を加工して、ストローを作り出しました。繊維抽出時に大量に出る残渣(残りかす)を活用しているためコストパフォーマンスが良く、さらに普通

のプラスチックとは違いコンポスト環境下で堆肥に生まれ変わる成分で作っているので、海ごみの代表ともいえるマイクロプラスチックにはならず、安心して使うことができます。漂白処理が施されていないため温かみを感じる色合いも魅力です。



【問い合わせ】  
FOOD REBORN  
<https://food-reborn.co.jp/>



HP

